

問題を探せ。
答えを探すな。

滋賀県立大学 | 環境科学部
環境政策・計画学科



様々な視点で物事をみるということ



地域活性化の仕掛人



廃棄物は宝の山!?



舞台は世界。「現場」でこそ見える問題がある。

“環境”で鍛えたチカラは、
社会のどこでも通用する。

環境政策・計画学科



服とあわせのシェアを目指します



滋賀県行政で環境の仕事をする誇り



生まれ育った街のために、自分ができること。



企業が変わらなければ、社会は変えられない。

環境政策・計画学科 在学生・卒業生が取り組んでいる
「問題」をHPでチェック!
<http://depp-usp.com/>
お問い合わせ E-mail: cssoffice@ses.usp.ac.jp (環境政策・計画学科控室)

 滋賀県立大学
THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE
〒522-8533 彦根市八坂町2500
TEL: 0749-28-8200(代表)
HP: <http://www.usp.ac.jp>



十
答えを探すな。
問題を探せ。

問題が決まっていれば、答えだって決まってくる。
ワンクリックで、すぐに答えが見つかるかも知れない。

でも、そんな学びって楽しい？

答えの前に、誰も気づかなかった問題を自分の力で発見すること。
そこから始める方がよりクリエイティブで、
世の中にとっても価値あることだと私たちは考えます。

だから、机にかじりつく前に、まずは現場に飛び出す。
そして、できるだけ多くの人と対話をする。

目を凝らし、耳を澄ませば、
今、自分を取り組むべき問題がきつと見えてくるはず。

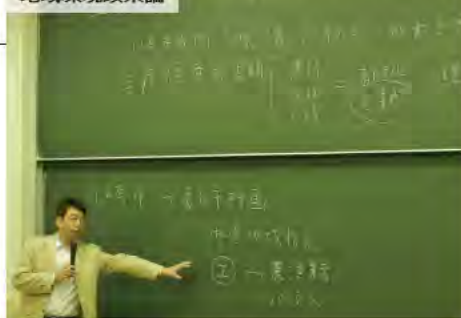
一言では表しきれないこの学びを「おもしろい」と感じられるなら、
4年間で磨いたものは、必ずあなたの武器になるでしょう。

環境政策・計画学科 学びのステップ

授業についての詳しい情報はこちら

<http://depp-usp.com/about/class>

地域環境政策論



環境政策学 廃棄物管理論

国際環境資源論 地球環境システム論

環境法 森林環境学 景観計画 など

環境の専門知識 を学ぶ

環境政策・計画学科では、基礎となる理論から専門的な内容まで、広い範囲で学びます。

現場で役立つ スキルを学ぶ

環境問題の現場では必須の、調査やファシリテーションについてなどの基礎知識を学びます。

現場を実践的 に学ぶ

実際現場に立って、環境イベントを企画・実施したり、市民の話し合い(合意形成)の場で意見をまとめたりなど、実践的に学びます。

「環境で鍛えたチカラは、
社会のどこでも通用する」
多様な視角を持って
現場に立てるように、
幅広い専門知識を学ぶ
環境問題とは、自然と人間社会が絡み合った現場に生じています。
この問題を理解して解決するためには、自然生態系の挙動だけでなく、人間社会の制度や仕組みも学ぶ必要があります。この学科では、多様な視角を持って現場に立てるように、幅広い専門知識を学ぶ科目はもちろん、実践的なスキルを身に付ける科目を用意しています。自身で問題を見つけて取り組む実践的なチカラを育むプログラムとなっていますので、環境問題に限らず、卒業後の実社会でもすぐに応用できる社会人基礎力が磨かれます。

市民や行政、企業に対し、言わば環境のスペシャリストという立場で政策・計画を立案。持続可能な社会に導いていくための能力を磨きます。
そのために、机上だけでなく、まちづくりや環境活動の現場に飛び込み、答えの前に問題を発見するところから始める「生きた学び」を実践していきます。
ここで培う「発想する」「提案する」「全体を見通す」「物事を推進させる」といった力は、社会で求められる普遍的なスキル。
どんな分野でも通用する人材となって、将来の選択肢を広げてください。



ファシリテーション技法・演習



政策形成・施設演習

合意形成支援技法・演習 地域調査法 環境シミュレーション

GIS演習 環境情報 環境経済演習 など



環境政策デザイン論・演習



政策計画演習

社会調査実習 環境マネジメント演習

社会システム分析設計・演習 市民参加論 など

問題発見

学生自ら探した「問題」をもとに卒業論文のテーマを決めます。

調査分析

テーマにあった研究室で教員の指導を受けながらさまざまな調査方法で研究を進めます。

問題解決の糸口発見

調査・分析により、明らかにしたことから「問題解決」するための糸口や課題を発見します。

4年間の学習の「集大成」としての卒業研究

自分で探した問題と最大限の努力を傾けて取り組むことで得られる最大の収穫。それは「自分の視点から社会の一端がはつきりと見えるようになる」「15000日ある大学生生活総決算として自分がかかっている問題を解決する」。

卒業研究